

## 【開催レポート】8/5 コレクティブふくおか+ オープンセミナー

暮らしをつくる  
仲間とともに  
1歩を踏み出す

参加費無料

●プログラムの詳細、参加お申し込みはWEBサイトへ↓  
[cf-plus.org](http://cf-plus.org)

令和3年度 市民公益活動担い手発掘・育成プログラム  
主催/福岡市 企画・運営/株式会社YOU!

こんにちは！コレクティブふくおか事務局です。

2021年8月5日、「コレクティブふくおか+」のキックオフイベントとして『未来の地域や社会での暮らしや仕事について考える』オープンセミナーを開催しました。高校生から80代の方まで、世代を超えて約70名の市民の方にご参加いただき、登壇者やNPOの方々と共に、市民公益活動への熱い思いを分かち合いました。

### 開会の挨拶



『コレクティブふくおか+』主催。福岡市市民公益活動推進課 山口課長

山口課長：福岡市では、自分たちが暮らす地域や社会における課題や、その解決に向けた取り組みを知り、より良い福岡に向けて身近なところから自分たちができるアクションを考え、一歩を踏み出すためのプロジェクト「コレクティブふくおか+」を開始します。本日のセミナーが、ご参加の皆さまにとって、地域や社会との関わりの新たなきっかけにつながることを願っています。

## 特別講演「地域や社会に関わることから広がる未来」

〈講師〉海外や国内の社会課題の現場と働く人をつなぐことで、課題解決とリーダー育成の両方を目指す NPO 法人クロスフィールズの共同創業者・代表理事の 小沼 大地 さん



小沼さん：会社に入ることを「社会に出る」という日本社会の中で、どうやって会社人的な生き方を社会人に戻していくのかっていうのが、僕自身がクロスフィールズを通してやっている活動です。

The slide features a map of Southeast Asia and Japan. A blue location pin in Japan is labeled '派遣元企業' (Dispatching company). A large grey arrow points from Japan to Southeast Asia, with the text 'スキルを活かして 数ヶ月にわたって留職先団体で勤務' (Utilizing skills to work for a stay employment organization for several months). A red-bordered box on the left contains the text '新興国の社会的企業/NPO 現地の社会課題解決に挑戦' (Social enterprises/NPOs in emerging countries challenge local social issue solutions) and a table of categories: 貧困 (Poverty), エネルギー (Energy), 教育 (Education), 環境 (Environment), 衛生 (Hygiene), and 雇用 (Employment). The 'CROSS FIELDS' logo is in the top right, and a small video inset of Daichi Konuma is in the top right corner.

**「留職」とは…**

**社会課題に取り組む新興国のNPOや企業とともに、本業を活かして課題解決に挑むプログラム**

派遣元企業

新興国の社会的企業/NPO  
現地の社会課題解決に挑戦

貧困	エネルギー	教育
環境	衛生	雇用

スキルを活かして  
数ヶ月にわたって留職先団体で勤務

## 福岡市を中心に市民公益活動に取り組む若手実践者によるパネルディスカッション

「自分たちの暮らしや仕事をつくるって？」

### <パネリスト>

街全体を「キャンパス」とし、誰もが先生となり、生徒になれる学びの場作りをしている  
NPO 法人福岡テンジン大学 理事の貴島 道拓さん

**貴島道拓の経歴・経験**

1992年 | 鹿児島生まれ。ずっと公立で平凡な環境で育つ

2011年 | 鹿児島大学入学。初めて市民公益活動に関わる

2015年 | トヨタ自動車九州(株)入社。福岡へ移住

2016年 | 休日に市民公益活動に関わり出す

2021年 | トヨタを辞めて、フリーランスになる（現在）

貴島さん：一歩でも踏み出すと世界が変わるかもっていうところで、行動する一歩踏み出さっていうことはすごく大きな事。でも、それは大きくなくてもよく、0.1歩でも踏み出すと何か世界が変わってくるのかなっていうのを自分の中で考えています。

家から出た生ゴミが、畑の栄養になって、美味しい野菜が育って、食卓に上がっていく循環のサイクルの普及活動をしている NPO 法人 循環生活研究所 理事の平 希井さん

**半径2km圏内の小さな循環の概念図**

◇半径2 kmの定理  
「物事を自分ゴトで捉えることができる範囲」

「主婦が感じる生活圏」  
「自転車であまれる距離」  
「顔が見える」  
「デイケアの送迎範囲」  
「地産地消の定理」  
「中学生の行動範囲」

平さん：友人の家に行ったときに、友達が生ゴミを捨ててるのを見たんですね。私は物心ついた時から、生ゴミの堆肥化するっていう環境で育ったので、生ゴミを捨てていることにすごく違和感を抱きました。家庭から出る生ゴミのほとんどは捨てられていて、リサイクルが進んでいないことを知り、コンポストの普及活動をしていて、半径 2 キロ圏内でこういった循環圏を作っていきたい。

市民公益活動をされる皆さんの情報・交流の拠点である福岡市 NPO・ボランティア交流センターあすみの永尾 優美香さん

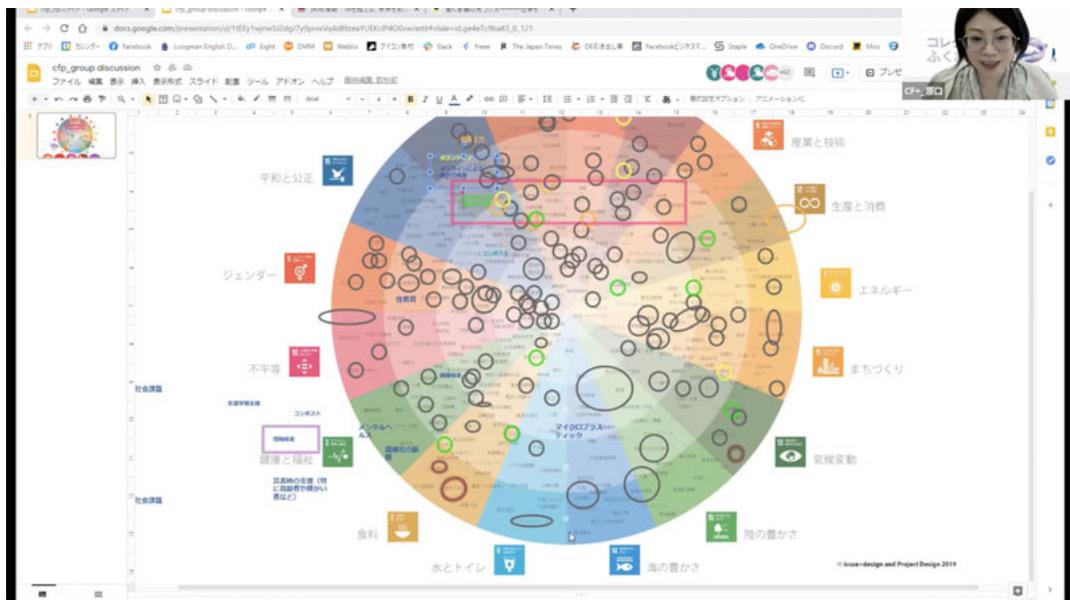
The slide is titled "これまでの経験" (Past Experiences) and features a grid of eight colored boxes, each containing a different experience. In the top right corner, there is a small video inset showing a woman, identified as Ms. Yonei Yumika, speaking.

これまでの経験			
東日本大震災での被災地支援	留学によるストリートチルドレンとの出会い	子ども学習支援	循生研の子どもくるくる村ボランティア
NGO JOICEPの女性エンパワーメント事業に参加	学生ボランティア団体「いと」の立ち上げ	僕たちは世界を変えられない著者（業田氏）との出会い	防災ガールでの活動

永尾さん：私は東日本大震災での被災地支援活動後、ボランティア活動やNPO活動っていうのにどんどんのめり込んでいきました。就職活動をきっかけに、仕事って人生の大半を占めるので、自分の好きなことをしたいという思いから、NPO業界へ進みました。各ボランティアセンターはいろんな特色がありますが、当センターは交流連携に強いボランティアセンターなので、市民公益活動の情報の提供や相談など、なにか活動したいという皆さんの交流を促進するというを日々やっています。

## SDGs イシューマップで参加者の関心事を可視化

講師・パネリストの実践をお話していただいたほか、参加者の皆さまと一緒に、それぞれがどんな社会課題に関心を持っているかを『SDGs イシューマップ』を使い、見える化していきました。



(「SDGs de 地方創生」SDGs イシューマップ

© issue+design and Project Design 2019)

当日の様子は、近日中に動画（後半の実践者取り組み紹介、社会課題への関心の見える化、パネルディスカッション部分のみ）を公開する予定ですので、そちらも是非ご覧ください。